

球技における「役割」を与えた授業実践

—自己調整学習に着目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

宮崎 雄成

本研究は、ゲーム中心の学習において役割意識を位置づけることが、学習者の自己調整する力にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的とした。対象は中学校第3学年の5学級のバスケットボール選択(108名)であった手立てとしては①ゲーム中心かつ短時間のゲームでの試行錯誤の積み重ね、②学習カードの工夫、③ゲームの工夫、④話し合いの工夫、⑤授業の流れの5つを行った。学びを自己調整する力の変容を捉えるため、授業映像の分析や学習カードの記述分析、アンケート調査を用いて検証した。

検証の結果、こうした手立てによって学びを自己調整する力は高まった。役割を与えることや学習カードで予見段階における力を高め、豊富なゲーム経験や話し合い活動によって遂行段階における力を高め、学習カードの目標設定が自己考察段階における力を高めたことが示唆された。今後はバスケットボールだけでなく、様々な球技や、他領域における自己調整の力を高める授業づくりができるように同様に検討していきたい。